

エゾウコギについて

問 最近，健康によいということからエゾウコギが話題になっていますが，この樹木の天然分布と特性，漢方薬としての利用，増殖法についてお知らせ下さい。（札幌市 M生）

答 天然分布と特性：エゾウコギは，北海道の東北部（主に十勝，網走地方）に天然分布しています。植物分類上では，漢方薬として名高い朝鮮人參と同じ仲間です。この樹木は，沢の中腹など排水のよい肥沃地に自生する樹高2～3mの低木で，葉は柄の長さ約3～7cm，掌状複葉（手の形）で5枚の小葉をもち，幹枝には下向きの細かい刺が密生します。7～8月頃，散形状の白い花が咲き，9～10月頃，球形（直径5～6mm）の黒い果実（液果）がみのります。

漢方薬としての利用：道立衛生研究所の分析結果によると，ビタミン，ミネラルの含有量は，葉，木部，根の順となっています。葉の採取適期は7～8月ころで，採取後10日間ほど陰干しして，手でもみほぐします。幹枝は，10月から翌年の3月にかけて刈取り，2cmくらいに切断し，室内で2週間以上乾燥させ，いずれも煎じます。また，根は煎じて用いますが，一般には，蒸溜酒につけて液が琥珀色になったころ飲用します。葉効は広範囲におよびますが，主に，動脈硬化，制ガン，コレステロールの減少，心臓病，糖尿病などの予防，治療に効果があります。

苗木の増殖方法：苗木の増殖は，まきつけ，さしき，根ざし（分根）などで行います。果実1個には，長さ5～6mm，半月形の種子が5～6粒入っています。精選は果実を手でもんで果肉を水洗除去し，5～7日間室内で乾燥します。1g当りの粒数は230粒，まきつけ量38g/m²，発芽率約45%，発芽は多年型で，まきつけ翌年36%，翌々年64%，とりまき，春まきとも同じ傾向がみられます。発芽数390本/m²，得苗数200本/m²，秋には平均苗高が5cmに生長します。

さしきは，用土に鹿沼土，火山砂を用います。緑枝ざしよりも休眠枝ざし（赤ざし）の方が，よく発根します。さしほの採取適期は2～3月，充実した前年伸長枝を選んで切取り，雪中埋蔵します。5月中旬ころ貯蔵した枝を12～15cmの長さに切り，基部を斜めに削り切返しをつけます。さしつけは150本/m²前後，直射日光を遮るため，さしき床を寒冷紗で覆い，適宜かん水すると約70%以上発根します。また緑枝ざしは，7月中旬ころ，当年伸長枝を採取し，さしほの長さは15～20cm，基部は節の直下で切ります。この際，さしほの長さの下方1/3（さしつけ部分）にある葉を取り除きますが，上方2/3ある葉は長さの1/2を切り落します。さしつけは100本/m²前後，以後の管理は休眠枝の場合と同じ方法で行うと35%以上発根します。

根ざし（分根）は，4～5月ころ自生木を丁寧に掘り起し，太さ約5mm以上の根を選び，長さ10～15cmに切って下方を斜めに削ります。そしてよく耕うんし，有機質肥料を十分に施した畑地に垂直もしくは斜めに埋め込むと，50～60日で不定芽が発生します。発芽率は約75%，秋には平均苗高が8cmに生長します。（樹芸樹木科 斎藤 晶）